



「荒天の中の船出」



校長 長 宏
ひろのぶ
かわ川
いわた
岩

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の措置により、例年とは全く異なる新学期のスタートとなりました。学校行事の中止や縮小、延期に加え、分散登校や部活動禁止など、まさに「荒天の中」の船出でした。「荒天」とは、生活等を脅かす天候の状態、厳密な定義はないが「嵐」に比べ、より様々な気象現象を含む氣象用語です。これから先、どのような展開になるのか、まったく予測できない状況にあります。生徒の健康・安全・安心が一番大切ですが、学習支援や部活動の再開に向けて、全教職員一致団結して、この難局を乗り切りたいと思っています。

さて、人間が、実際に生きていながら、心の中では死んだような状態になってしまうことがあります。それは絶望した時です。夢が打ち砕かれ、希望を失った時です。このように絶望することを、デンマークの哲学者キルケゴールは「死に至る病」と言いました。絶望することによって、生きながら死んだも同然という状態になってしまうことほど、不幸なことはないでしょう。長い人生の中では、絶望しそうな出来事が何度かあるものです。そのような時こそ、新たな希望を持つことが大切であり、夢の実現を信じていることが重要だと思えます。希望を持ち、夢はかなうと強く信じている限り、生きる意欲がなくなることはありません。本校の生徒であれば、どんなに絶望的な状況に陥っても、希望を持ち、夢を信じていることで、必ず乗り越え



入学式



PTA入会式

今年度、父母と教師の会 会長を仰せつかりました。菅 文昭と申します。昨年度のPTA活動同様、意欲的に活動して参りたいと思っております。その為には皆様のご意見やお力が必要となります。まだまだ至らぬ点が多いと思いますが、是非、皆様にはご指導の



PTA会長 菅 文昭
あきふみ
かん

「新年度を迎えて」

子供たちの応援団になろう

てくれると信じています。どんな絶望にも必ず出口があるはず。これからの、保護者の皆様には、本校への御理解と御支援並びに御協力をお願いいたします。

ほどお願い申し上げます。これから一年間の任期の間、皆様方のご協力とご理解を頂きながら精一杯努力して参りますので、子供たちのため多くの保護者が積極的に参加下さる事をお願い申し上げます。

さて、今年に入り新型コロナウイルス問題が世界中を席卷しています。もちろんこの三本木高等学校・附属中学校でも3月から学校は休校、4月になって数日授業が行われましたがまた休校となり、多くの学校行事や部活の大会、PTA活動などが軒並み中止、又は延期となり子供たちの活動が滅茶苦茶な状態になっています。まだこの先どうなるか分かりませんが、早く平穏な学校生活が送れるよう願っています。そしてこんな時だからこそ、この言葉を子供たちに伝えたい。『試練は越えられる人にしか与えられない。神が君を選んだ。だから君は絶対に越えられる。』という言葉で、スラムダンクや野球のイチロー選手やX JAPANのYOSHIKIも使っています。子供たちの夢や希望がかない、将来はこの十和田市に戻りリーダーとして活躍してくれば非常にうれしいです。

編集・発行
青森県立
三本木高等学校
三本木高等学校附属中学校
父母と教師の会
広報委員会
TEL 0176-23-4181 (高校)
TEL 0176-24-1184 (中学校)
<http://www.kamikita.ed.jp/~sanbongi/>
題字 書道部
高校3年5組 小笠原美玖
印刷 / 日刊東北印刷所